

二〇二五年八月二八日

清水湧く門前町をたもとほる  
四天王山門の秋聞くならむ  
恙なく歩ける感謝お花畑  
洋館のロビー 要に花氷

さつき  
なつき  
宏 虎  
豆 狸

二〇二五年八月二七日

郵便夫泉に喉を癒しをり  
月涼し家出の猫の歸りきし  
古都暑し大路小路に人あふれ

さつき  
有 香  
はく子

二〇二五年八月二六日

だみ声で叫ぶ鳥や秋暑し  
車椅子身振り手振りに阿波踊  
秋暑し極彩色の電車来る

菜 々  
ぼんこ  
満 天

二〇二五年八月二五日

日を弾く綺羅の川波鮭のぼる  
百僧の経乱れなき大施食  
ごと転ぶ牧草ロール秋日影

宏 虎  
なつき  
さつき

二〇二五年八月二四日

阿波踊り調子取り合ふ下駄の先  
磴百段あと少しよと法師蟬  
怠け癖暑に負けしにはあらざれど

ぼんこ  
はく子  
明日香

二〇二五年八月二三日

室外機うなる陋巷秋暑し  
亀石はここよここよと昼の虫  
天空の丘に見下ろす花野かな  
秋の日の目つぶし食らふ観覧車

はく子  
宏 虎  
さつき  
さつき

二〇二五年八月二二日

沖馳せる高速艇の灯の涼し  
初盆の写真の父は若かりし  
雑草を引く格闘技さながらに  
大瀬戸を行き交ふ船の水尾涼し  
上弦の月ひつかかる秋簾  
蟻の列帆のごと揺るは蝶の羽

さつき  
泰山  
ぼんこ  
うつき  
さつき

毎日句会みのる選・二〇二五年八月三〇日